

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな Asia時事フラッシュ

## タイ中銀：ターミナルレート到達を示唆

### ◆ タイ中銀が再び利上げ

- 9月28日のタイ中銀会合では0.25%利上げを実施し、政策金利を2.50%に引き上げた。政策金利の引き上げは8会合連続。以下は声明文の主な内容。  
**利上げの理由** 景気拡大と需給の緩みが続く中、インフレを継続的に目標レンジ内で維持し、長期的なマクロ金融の安定性を強化し、先行き不透明感の備えとして政策余地を確保するため、利上げを決定した。  
**経済見通し** 2023年と2024年の成長率をそれぞれ2.8%、4.4%と予想。23年は中国の控え目な成長とグローバルの電子機器サイクルによる輸出の遅れで成長が鈍化。一方、24年は観光業の着実な回復と輸出の好転、政府の支援策で成長が加速。  
**物価見通し** 総合インフレは目標レンジで留まる見通しで、23年と24年はそれぞれ1.6%、2.6%と予想。コアインフレは23年の1.4%から24年の2.0%に上昇すると予想。インフレの上振れリスクとして政府の景気対策による需要サイドの圧力とエルニーニョ現象による食品価格の上昇を注視。  
**金融政策** 金融政策は引き続きインフレが目標レンジで安定推移することとマクロ金融の安定性を確保する必要がある。現在の政策金利は長期の持続可能な成長を支援するのに妥当。今後の金融政策は政府の支援策による上振れリスクを含めて経済成長と物価見通しを考慮する。

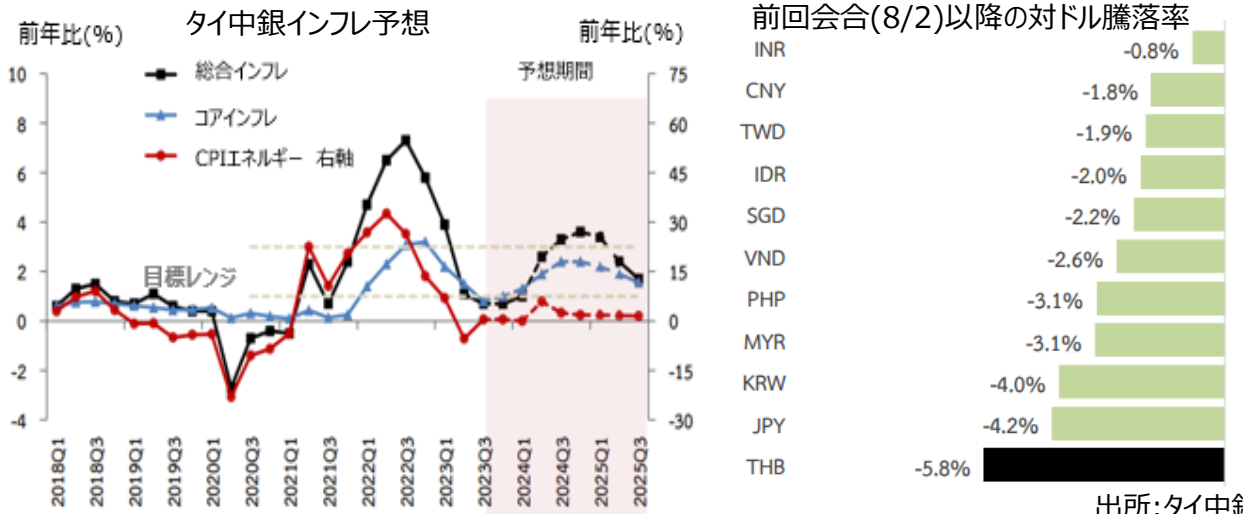
### ◆ ターミナルレート到達を示唆

- 23年の成長率と物価見通しを下方修正したにもかかわらず、タイ中銀が利上げを継続した。政府の景気対策や今後のインフレ上昇(下中央図)を見据えて予防的な利上げといえる。また、相対的なバツ安(下右)への懸念も今回の利上げにつながった可能性がある。
- 金利政策においては今までの正常化姿勢ではなく、2.5%の政策金利水準が妥当と評価して、中立金利に達したことを示唆。次回会合から据え置き期間に入る可能性が高まった。一方、原油価格の上昇、景気支援策、ドル高の継続などのインフレ上振れリスクがあるので、不透明感も強い。

### ◆ バーツへの影響

- 当面のバーツを展望すると、対ドルについては新政府の景気対策への期待があるものの、米国金利上昇によるタイからの資金流出がバーツの重しとなるだろう。対円については円買い介入警戒が継続するが、日銀が金融緩和継続を表明したため、バーツ円は底堅く推移するだろう。

主要経済指標	タイ中銀予測	
	2023	2024
GDP成長率(%)	2.8 ↓	4.4 ↑
2023年5月時点	3.6	3.8
CPI(%)	1.6 ↓	2.6 ↑
2023年5月時点	2.5	2.4
コアCPI(%)	1.4 ↓	2.0 ↔
2023年5月時点	2.0	2.0
商品輸出(%)	-1.7 ↓	4.2 ↑
2023年5月時点	-0.1	3.6
商品輸入(%)	-0.1 ↓	4.1 ↓
2023年5月時点	0.7	4.2
外国観光客(万人)	2850 ↓	3500 ↓
2023年5月時点	2900	3550



◎注意事項  
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。